

# カタログをご利用の前に（フローリング）

カタログを正しくご利用いただくために必ずご覧ください。

## ■フローリングのご選定と施工・ご使用の際のご注意

- ・天然素材のため、色調・模様などにバラつきがあり、カタログ掲載写真とは微妙に異なります。弊社でご紹介する見本と納入する商品が全く同じ商品であることは保証しかねますので、予めご了承ください。
- ・商品毎に使用用途・場所を各商品ページに掲載しております。安全に商品をお使いいただくために、必ずお守りください。

## ■特長・機能マーク表示について



### 単板

複合フローリングの表面に貼り合わせた天然銘木の薄板を単板といい、その厚さを分かりやすく表示しました。



### 厚み寸法

厚みを分かりやすく表示しました。



### 床暖房

床暖房対応の床材として、使用可能です。



### 遮音

フローリングで遮音性能のある商品です。

## ■マーク表示について



### グリーン購入法適合商品

グリーン購入法の判断基準に適合している商品です。



### F☆☆☆☆

ホルムアルデヒド発散性能レベルが、改正建築基準法によって使用面積制限を受けない最高等級F☆☆☆☆レベルの商品です。



### マット調

表面仕上げが、ツヤをおさえたマット調の商品です。



### 強化UV塗装

フローリングの表面UV塗装で、アルミナ入りの強化UV塗装を施している商品です。



### エイジング仕上げ

フローリングの表面加工で、古木の風合いを施している商品です。

※工法は製品によって異なります。必ず各製品ページにて工法を確認の上、従ってください。

### 【仮並べ】

- ◇施工1週間前には開梱し、施工現場に馴染ませるために2～3日は仮並べしてください。
- ◇天然木のため、色・柄にバラつきがあります。仮並べの際、節、色目、柄のバランスを調整してください。
- ◇また、乱尺のフローリングは、長さの長いもの、短いもののジョイントが集中しないように仮並べしてください。

### 【クリアランス】

- ◇壁際には必ず5～10mmほどの隙間を設けてください。天然木は馴染むまで伸縮を繰り返します。
- ◇ビニル巾木の使用は避けてください。
- ◇気候条件、季節、室温などの影響を考慮し、無理に叩き込んだりせず、長手方向のジョイントは軽くふれる程度に寄せ、短手は名刺1枚程度隙間を空けて施工することで、施工後の突き上げを回避できます。特に乾燥した冬季に施工する場合は、湿度が高くなる季節に材料が伸びることを考慮して隙間を設けてください。長手方向に対して複合フローリングは5～10枚おきに、無垢フローリングは2～3枚おきに、フローリングの密着部分に名刺1枚分程度の隙間を設けてください。

### ⚠ 施工前にはフローリングの乾燥状態を必ず維持させてください。

高温多湿な場所、雨がかりの場所などに置かないようにしてください。フローリングを湿った状態で施工しますと、後日フローリングがあばれて、表面ヒビ割れなどの不具合を発生させる原因になります。

### ⚠ 養生テープは弱粘性のものを使用してください。

施工後、養生シートで養生する際、養生テープは必ず弱粘性のものを使用してください。養生テープを長期間貼ったままにしていると、テープを剥がす際にフローリング表面の塗膜が剥がれたり、のりが残る恐れがあります。やむを得ず長期間貼ったままにされる場合は、養生テープをフローリングに直接貼らないようにしてください。

### ⚠ 養生テープを取り除く時は、ゆっくり剥がしてください。

養生テープを取り除く際はフローリング表面の塗膜剥離を起こす恐れがありますので、テープを床面と並行にしながらゆっくりと剥がしてください。

### ⚠ 無塗装フローリングは必ず現場塗装してください。

無塗装フローリングを現場塗装しないまま使用すると、表面から水分が浸透し、表面のヒビ割れなどの不具合を発生させる原因になります。

### ⚠ 接着剤が完全硬化する前に床の上を歩かないでください。

接着不良をおこし、音鳴りの原因になります。

### ⚠ 水には気をつけてください。

木は水を吸うと膨張します。水拭きは絶対にしないでください。また、機械での高圧洗浄も絶対しないでください。フローリングの表面の割れや、反り等の不具合が生じることがあります。正しいメンテナンスによって、フローリングを綺麗に保つことができます。

### ⚠ 反りの場合

反りの場合はフローリングを押さえながら施工してください。

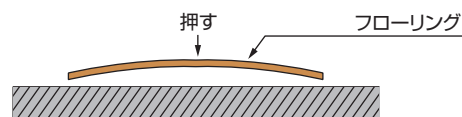
### ⚠ 無垢フローリング、施工上の留意点

無垢フローリングは、複合フローリングに比べて膨張収縮率が高いので、施工には特に注意が必要です。

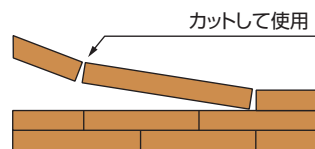
壁際などのすき間を充分にとらなかつたり、季節的な要因による材料の伸縮を無視した施工は、後日、目地部分の突き上げや隙間を発生させます。壁際との隙間をきちんと取る、フローリング密着部分にきちんと隙間を取る、施工スパンが10m以上の場合はエキスパンションを取るなどの施工上の対策をお願いいたします。

### ⚠ 床鳴り

音の程度にもよりますが、フローリングは木の特性上、継ぎ目がこすれて音が発生することがあります。天然素材であるため、調整機能が働き伸び縮みが生じることによって発生するもので、製品の性能上特に問題はありません。



- 曲がりがある場合は直線でおさまるところでカットする。



フローリングに曲がりがある場合は直線でおさまるところでカットする。

# フローリングの施工方法とメンテナンス

## 施工について

※工法は製品によって異なります。必ず各製品ページにて工法を確認の上、従ってください。

### 【仮並べ】

- ◇施工 1 週間前には開梱し、施工現場に馴染ませるために 2～3 日は仮並べてください。
- ◇天然木のため、色・柄にバラツキがあります。仮並べの際、節、色目、柄のバランスを調整してください。
- ◇また、乱尺のフローリングは、長さの長いもの、短いもののジョイントが集中しないように仮並べてください。

### 【クリアランス】

- ◇壁際には必ず 5～10mm ほどの隙間を設けてください。天然木は馴染むまで伸縮を繰り返します。
- ◇ビニル巾木の使用は避けてください。
- ◇気候条件、季節、室温などの影響を考慮し、無理に叩き込んだりせず、長手方向のジョイントは軽くふれる程度に寄せ、短手は名刺 1 枚程度隙間を空けて施工することで、施工後の突き上げを回避できます。特に乾燥した冬季に施工する場合は、湿度が高くなる季節に材料が伸びることを考慮して隙間を設けてください。長手方向に対して複合フローリングは 5～10 枚おきに、無垢フローリングは 2～3 枚おきに、フローリングの密着部分に名刺 1 枚分程度の隙間を設けてください。

## 釘・糊併用工法 [合板捨貼下地]

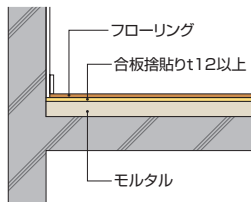
### 【合板捨貼下地の注意点】

- ◇根太下地、根太に使用する材料は十分に乾燥したもので、仕上げ材を貼り込むのに必要な強度を有するものとします。
- ◇根太間隔は 300mm 程度として均等に配置してください。
- ◇必ず 12mm 以上の耐水合板を捨て貼りしてください。この場合、床鳴り、たわみ、目違いがないように注意してください。
- ◇捨て貼りした合板に根太の墨出しをしてください。
- ◇下からの湿気が多い場所では、0.1mm 以上のポリエチレン防湿フィルムを敷くなど、湿気対策をしてください。(防湿フィルムは合板と下地の間に敷いてください。)
- ◇遮音マットシートに直接施工しないでください。

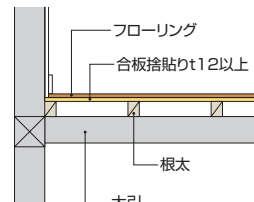
### 【合板捨貼下地への施工】

- ◇フローリングは、根太に直角に施工します。
- ◇接着剤と釘の併用で施工してください。
- ◇接着剤は、木質床材用ウレタン樹脂系接着剤を使用してください。部分塗布を避け、くし目コテ等で下地全体に塗布してください。木工用ボンドは使用しないでください。床鳴り及び黒シミの原因になります。
- ◇釘は長さ 38～45mm のスクリュー釘またはステープルを使用してください。(釘の長さは材厚の 3 倍以上としてください)
- ◇エアガンで釘またはステープルを雄サネの上面入墨部に 45° の角度で、打ち込んでください。釘の間隔は 300mm 程度です。エアガンがない場合はドリルで穴をあけ、釘を金槌で打ち込み、ポンチ等で叩いて入れてください。
- ◇釘は下地合板を通して墨出しした根太にしっかり固定してください。
- ◇木質なので反りや変形があります。施工時には矯正しながらはめ込んでください。

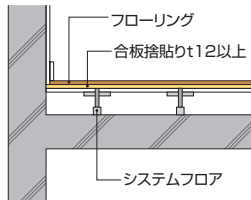
【モルタル下地合板捨貼り工法】



【根太組工法】合板捨貼り



【システムフロア工法】



## 直貼り工法 [モルタル下地または合板下地]

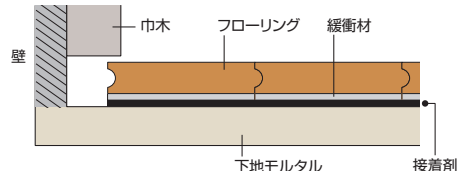
### 【モルタル下地の場合の注意点】

- ◇セルフレベラーで下地調整し、不陸は 1m につき 2mm 以下にしてください。
- ◇下地の乾燥は、モルタル水分計で測定して 8% 以下とし、土間に接するコンクリートは防水処理をしてください。乾燥が不十分な場合、接着不良、床材の反り・伸びなどの不具合が生じることがあります。
- ◇出入り口、壁等の貼り代は、高低の差が均一になるようにしてください。
- ◇下地の凸凹、ゴミ、ホコリを除去してください。
- ◇施工室温は 18℃ 以上が標準です。
- ◇遮音マットシートに直接施工しないでください。

### 【モルタル下地または合板下地への施工】

- ◇接着剤は、必ず直貼り用のウレタン樹脂系接着剤を使用してください。部分塗布を避け、くし目コテ等で下地全体に塗布してください。
- ◇木質なので反りや変形があります。施工時には矯正しながらはめ込んでください。
- ◇接着後はゴムハンマーで充分圧着し、強く踏みつけてフロアの浮きを点検してください。

直貼り工法(モルタル下地)



## 【床暖房対応フローリングの施工と注意事項】

### ■施工上の注意事項

- ◇必ず t12mm の捨て貼りをし根太の位置を墨出ししてください。
- ◇部分的な床暖房は避け、床面全体、部屋単位の暖房としてください。
  - ・床暖房パネルの上に 12mm 厚以上の耐水合板を捨て貼りしてください。捨て貼り合板は千鳥に貼り、少し目透しして床暖房パネルの小根太部分に釘止めしてください。
  - ・温水パイプの位置を合板に記しておき、フローリングの釘を誤って温水パイプに打たないように注意してください。
- ◇各床暖房メーカーの施工要領にしたがって、正しく施工してください。
  - ・施工は必ず釘とウレタン系接着剤を併用してください。
  - ・接着剤は捨て貼り合板に全面塗布して施工ください。釘は温水パイプを傷つけないように、小根太の部分で留めてください。
- ◇コンクリート・モルタル埋設型の床暖房システムは、施工する前に必ず試運転を行ない、コンクリート・モルタルを十分に乾燥させてください。コンクリート・モルタルに湿気があるとフローリングが反る場合があります。
- ◇床暖房対応フローリング以外のフローリングはご使用にならないでください。

### ■床暖房使用時の注意事項

- ◇温度の上げすぎに注意してください。床表面温度は 25～27℃ に維持し、室内の湿度は 35% 以上を保ってください。
- ◇床暖房により床材が暖められると、材料は収縮しますが、湿度の高くなる季節に材料が伸びることを想定して寸法をとってください。
  - ・床暖房システムの運転は、施工完了後 2 日以上養生の後に開始してください。
- ◇低床吹き出しファンヒーターや電気カーペットなどを床暖房施工したフローリングの上で併用しないでください。
- ◇熱がこもらないように、ピアノなど極端に重いものや、じゅうたん、床面の広い家具など、放熱の妨げになるようなものを置かないでください。
- ◇床暖房使用期間中は低温での連続運転をしてください。

## メンテナンス及び使用上の注意

### 【日常のお手入れ】

- ◇木質床材は水をさらいますので、水拭きを避け、電気掃除機などで砂やチリを取り除き、乾いた布やダストモップで乾拭きしてください。
- ◇汚れが取れない場合は、雑巾に中性洗剤を染み込ませて、しぼってから軽く拭いてください。
- ◇表面 UV 塗装されているフローリングの場合、ワックス塗布する必要はありませんが、塗布される場合は以下の点にご注意ください。
  - ・UV 塗装フローリングに使用できるタイプの樹脂性木質床用ワックスを必ずお使いください。 推奨ワックス コニシ(株)「ボンド木床専用ワックス」
  - ・ワックスは布等に少量を含ませ、フローリング 1 枚 1 枚に薄くのばし、丁寧に塗布してください。
  - ・大量のワックスを一度で塗りますと、小口部分からワックスが浸透し、製品の変色や、ワックスの水分で割れや反り、剥がれ等の不具合が発生する場合がありますのでご注意ください。

### 【床を傷つけないように】

- ◇机、椅子、家具などの床と接触する部分を、ゴムキャップやフェルト等でカバーしてください。(プラスチック製カバーの中には固く床を傷つけるものがあります。ご注意ください。)
- ◇家具を移動させる場合などは引きずらないように注意してください。
- ◇出入り口など、雨水の持ち込まれる場所には、水切りマット等を置き、床を濡らさないよう注意してください。
- ◇重いものや硬いものを落とさないように注意してください。
- ◇鉄製やプラスチック製の車輪のついた椅子や家具、女性のハイヒール等は床表面の塗膜を傷つける場合があります。

### 【汚れをつけないように】

- ◇ガム、絵の具、墨などを付着させないようにしてください。
- ◇水や油類をこぼさないようにしてください。万一こぼした際は、すぐに拭き取ってください。
- ◇観葉植物など、鉢の下には水受け皿などを使用してください。
- ◇浴室周辺など水回りの近くではマットなどを使用してください。

### 【その他】

- ◇フローリングは常態呼吸をしますので、長時間遮蔽物を置かないでください。
- ◇結露した場合は、すぐに乾いた布で拭いてください。
- ◇空気が乾燥することが続くと木質が乾燥し、若干隙間が開くことがあります。湿度が多い季節になると元に戻ってきますので、隙間に硬い詰め物をしないでください。
- ◇フローリングは直射日光の紫外線により変色することがあります。ブラインド等の紫外線対策をお勧めします。

### ⚠️ 施工前にはフローリングの乾燥状態を必ず維持させてください。

高温多湿な場所、雨がかりの場所などに置かないようにしてください。フローリングを湿った状態で施工しますと、後日フローリングがあばれて、表面ヒビ割れなどの不具合を発生させる原因になります。

### ⚠️ 養生テープは弱粘性のものを使用してください。

施工後、養生シートで養生する際、養生テープは必ず弱粘性のものを使用してください。養生テープを長期間貼ったままにしていると、テープを剥がす際にフローリング表面の塗膜が剥がれたり、のりが残る恐れがあります。やむを得ず長期間貼ったままにされる場合は、養生テープをフローリングに直接貼らないようにしてください。

### ⚠️ 養生テープを取り除く時は、ゆっくり剥がしてください。

養生テープを取り除く際はフローリング表面の塗膜剥離を起こす恐れがありますので、テープを床面と並行にしながらゆっくりと剥がしてください。

### ⚠️ 無塗装フローリングは必ず現場塗装してください。

無塗装フローリングを現場塗装しないまま使用すると、表面から水分が浸透し、表面のヒビ割れなどの不具合を発生させる原因になります。

### ⚠️ 接着剤が完全硬化する前に床の上を歩かないでください。

接着不良をおこし、音鳴りの原因になります。接着剤が硬化するまで(24時間以上)、上に乗らないでください。

### ⚠️ 水には気をつけてください。

木は水を吸うと膨張します。水拭きは絶対にしないでください。また、機械での高圧洗浄も絶対にしないでください。フローリングの表面の割れや、反り等の不具合が生じることがあります。正しいメンテナンスによって、フローリングを綺麗に保つことができます。

### ⚠️ 無垢フローリング、施工上の留意点

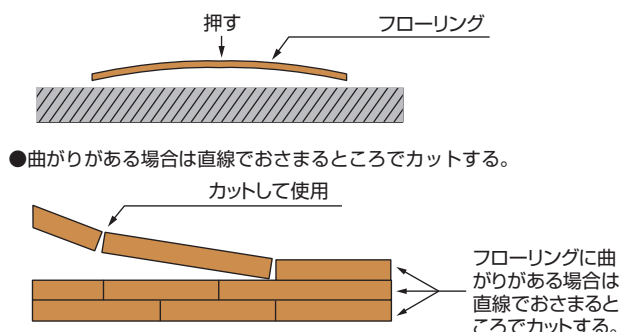
無垢フローリングは、複合フローリングに比べて膨張収縮率が高いため、施工には特に注意が必要です。壁際などのすき間を充分にとらなかつたり、季節的な要因による材料の伸縮を無視した施工は、後日、目地部分の突き上げや隙間を発生させます。壁際との隙間をきちんと取る、フローリング密着部分にきちんと隙間を取る、施工スパンが 10m 以上の場合はエキスパンションを取るなどの施工上の対策をお願いいたします。

### ⚠️ 床鳴り

音の程度にもよりますが、フローリングは木の特性上、継ぎ目がこすれて音が発生することがあります。天然素材であるため、調整機能が働き伸び縮みが生じることによって発生するもので、製品の性能上特に問題はありません。

### ⚠️ 反りの場合

反りの場合はフローリングを押さえながら施工してください。



専用接着剤(釘・糊併用工法用)

**アドボン 8000E**


(AB-8000E)

1液ウレタン樹脂系フローリング用接着剤

フローリング(釘・糊併用工法用)専用接着剤

**F☆☆☆☆**

認定区分: JIS



【用途】木質下地剤とフローリングとの接着

- ※床暖房フローリングにも使用できます。
- ※コーキングガンが必要です。(商品に含まれていません)
- ※直貼り工法には使用できません。

【標準塗布面積】約 6㎡ / 1本 (850ml)

【販売単位】1本単位

【販売価格】¥1,500/本

【標準貼付可能時間】夏季: 約 20分 冬季: 約 60分

【標準硬化時間】夏季: 約 半日 冬季: 約 1日